

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100282		
法人名	株式会社 サン・リンク		
事業所名	グループホームこころ Bユニット		
所在地	島根県松江市馬潟町108-1		
自己評価作成日	令和3年1月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和3年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在介護度1~5の方が入居されています。その為利用者それぞれのニーズに気を配り、個々の出来る事を引き出せるようコミュニケーションやレクリエーションにつなげています。
 今年度は新型コロナ感染症の流行の為、外出支援やご家族との交流の機会も制限せざるを得ませんでしたが、手紙やメール、電話といったそれぞれの方に可能な手段を用いてご家族との繋がりを大切にしています。2月からはタブレット端末を用いてリモート面会が出来る設備をスタートしました。
 また近隣の散歩や苑庭でのお茶会を通し外の空気に触れる機会を設けています。
 様々な制限がある中でも楽しみを持って日々を過ごして頂けるよう、ご家族と一緒にご利用者を支援出来る体制を目指して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「毎日を楽しくして笑顔で生活が送れるように」の理念に沿いその人らしい生活が継続できるように支援している。今年度コロナ禍で毎年継続していた地域との交流は出来なくても、事業所内で楽しめるように職員は利用者一人ひとりの好み、したいことを把握し個別ケアとして支援している。訪問が出来ない家族へ担当から毎月写真付きたよりの送付や電話連絡などこまめに行き、家族から安心と感謝を伝えられている。今後感染症が落ちつけば以前と同じように花見や足湯、外食などに行き楽しみたい、外泊もしたい、と願う利用者の思いをしっかり受け止め実践したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに地域の公民館行事の参加等、交流の機会を計画したが、感染症流行の為に実現しなかった。理念に基づき笑顔で過ごしてもらえる工夫を職員一同で取り組んだ	年度初めの職場会議で話し合い、理念の共有と意識付けを行っている。職員同士、申し送りやミーティングで情報を共有しあい寄り添ったケアをすることに日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域の行事も中止となり、苑での行事にも参加頂く事はできなかったが、苑周辺の散歩の時に地域の方と顔を合わせる事が出来た	保育園児との交流や中学生の体験学習、公民館喫茶など予定していた取り組みはできなかったが、次年度の取り組みに思いを強くしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、地域の方にも施設内での現状を報告し、地域の方からの相談があれば、認知症の方の理解や支援について分かり易く伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、施設の取り組みを報告し意見を頂きサービスの改善に心掛けた	包括支援センターより助言を受け運営推進会議で事故報告・ヒヤリハット報告を続けた結果服薬ミスがなくなっている。また、合同の避難訓練の要望から後日、一緒に避難経路の確認を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課への電話や、必要時には出向いて相談を行っている	毎回の運営推進会議で現状を伝え、助言や情報提供を受け協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し2ヶ月に1回会議を開催し取り組みについて話し合う機会を設けて取り組んでいる	各ユニットの職員1名と管理者で委員会を開き取り組みについて話し合っている。最近の事例ではセンサーマット使用者のケアについて安全に向けて話し合い対応した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で研修を行い、高齢者虐待についての事例検討等を通し知識を深めた。また不適切ケアについて職員へのアンケートを実施し意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の方の入居があった。後見人を含め関係者と話し合いを重ね支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書やその他の確認書を用いて細かく説明をし、ご理解をいただけるように十分な時間をとって対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とコミュニケーションを図るよう努め、プラン更新や面会時に意見を伺い運営に反映できるよう努めている。	意見箱の設置や面会時、電話などで様子を伝え要望を聞いてサービスに反映させている。今は面会が制限される状況だが家族から希望が多くタブレット端末利用でリモート面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の場で職員同士の意見交換など話し合いの場を設けている。また、意見箱を設置し意見を出しやすい環境を整えている。	管理者は日頃から職員の意見を聞くように努めている。物品購入の要望やケア内容の改善、職員のメンタルケアの要望など様々な意見や提案を聞き検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設ける等し、職員が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会を2ヶ月に1回行い、知識の向上を図るとともに、個々に技術的な指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防を優先し、計画していた外部研修や部会等も参加を見合わせた。(会自体の中止もあり。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には出来る限りご本人と面談し、直接話を聞き、本人の希望を伺うようにしている。落ち着いて過ごせる環境作りをしている。入居前の情報を職員全員で共有し、同じ対応が出来るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、こまめに連絡を取り合い、困っていること、不安、要望等を聞きとりしている。必要な内容は職員全員で共有し、ご家族にも安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で、ニーズを掘り起こし、どんな支援が必要なのかを導き出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力や興味に応じて、洗濯やモップ掛け、テーブル拭きなどの家事を一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲での面会や家族からの電話などで、本人との関係性が保てるよう援助している。また、お便り等でも日々の様子を家族へ伝えるようにしている。計画作成時には家族へ要望や意見を伺いながら作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会可能時には、別室を設けて気兼ねなく面会が出来るようにしている。現在はタブレット端末を使用し、顔をみながら話が出来るようにしている。	知人や家族、親せきの面会や電話など今までの関係が継続するよう支援している。コロナ禍であっても遠方の家族へ毎月のたより送付や利用者が持つ携帯電話での会話など援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行具合や相性等も考慮して、席を決めている。状況の変化に応じて都度話し合い、席を変更するなどして、利用者同士の関わり合いが円滑に行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡・相談があった場合には対応している。必要であれば経過をフォローし、支援に結び付ける体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれに担当をつけ、その担当介護職員が中心となり、本人の希望や意向をくみ取るよう努めている。	日常の関わりの中で居室担当者が中心となり会話や表情、行動の変化から思いの把握に努めている。管理者も日々の会話や記録、職員の情報から気になることはユニット会議に提案し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りとケアマネジャーや施設などからの情報収集を行うとともに、日々の関わりの中で得た情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事、水分量、生活の様子を記録、業務日誌や、特変等あれば連絡ノート等に記載することで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会で個々の利用者の変化や援助について検討している。担当職員とケアマネジャーが中心となって利用者と家族の要望を聴き、介護計画を作成している。	利用者、家族の情報、要望を基に介護計画を作成している。要望を取り入れ、個別プランで晩酌やコーヒーを楽しむ利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や連絡ノートを活用し、職員間での情報共有し、月1回のユニット会で話し合いをしている。また、介護計画見直し時には、担当職員も計画の評価を行い、現状に即した計画作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに合わせ。柔軟な対応が行えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の行事参加や近隣の神社参拝や買い物、外食など行っていたが、今年度はコロナ禍のため実施していない。近所の散歩へは積極的に出かけるなど、出来るだけ楽しみの持てるよう支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医が定期的に訪問診療を行っている。他の医療機関を希望される場合は、その意思を尊重し、家族の協力も得ながら、受診出来るようにしている。	希望のかかりつけ医への受診や協力医の訪問診療の体制を整えている。入院など緊急対応時にも必要な情報伝達や連絡をすみやかに実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護の定期巡回時に、日々の心身の状況や気づきを伝え、指示を受けながら適切な受診や看護が受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の了解を得た上で医療機関へケアマネージャーより情報提供を速やかに行っている。入院中も医療機関と情報交換をしながら、退院調整が速やかに出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については契約時に説明し同意を得ている。利用者の状態に応じ、都度本人、家族と対応について協議し、関係者とも連携を取りながら最適な援助に繋がるよう努めている。	利用者、家族の思い、希望を聞き、関係者と話し合いながら事業所としてできる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの活用と内部研修等で再確認の機会を設けている。またマニュアルは現場に沿う内容になるよう適宜見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、消防署へ報告を行っている。今年度はコロナ過により、消防署の立ち合い訓練は計画はしていたが、未実施である。	日頃から利用者の状況を把握して避難経路の地図を確認している。また、テレビをつけておくことで災害情報がすぐわかるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の生活歴や人格を尊重し、人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、研修等も行い、日常的に言葉かけ、対応を行っている。	一人ひとりに好きなこと、嫌いなこと、不得意なことがあるので無理な言葉かけや対応をせずそれぞれに合わせるようにしている。特に排泄時は居室のドア、トイレのドアをきちんと閉めて介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決まったことを伝えるだけではなく、利用者にとどのようにしたいか聞くように心がけている。また、言葉にできない利用者に対しては表情や様子を見ながら、その意向をくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇の過ごし方など、利用者の声を聴き、それに即した対応をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や服を選んでもらうなどの支援をしている。また、季節の変わり目などには、家族と相談しながら、その人の好みに合うものを準備するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器洗いなどそれぞれが出来る作業を一緒に行うようにしている。またレクリエーションとしてお菓子作りを一緒に行い、楽しめるよう支援している。	法人施設から調理済みの食事が来るので準備はできないが、下膳やテーブル拭きなどできる人は行っている。希望を取り入れたおやつ作りをするなど楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量・水分量を記録し把握出来るようにしている。また、嚥下状態や摂取量について看護師、主治医へ必要に応じて食事形態や補食について相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を毎食後に行っている。協力歯科医院を定め、必要時には訪問診療による治療や指導が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を個々に記載し、排泄パターンがつかめるよう努めている。一人ひとりに合った声掛けや介助方法を職員で話し合い対応している。夜間も安眠出来るよう配慮している。	一人ひとりの排泄パターンに沿って個別の言葉かけや介助方法で支援している。対応する職員が交代したり時間をずらすなど工夫している。利用者の状態で夜間ポータブルトイレが安全な場合使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食事や水分量を確保する、乳酸飲料を摂取するなどして自然排便を目指している。また、必要に応じて医療機関へ相談し服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の気持ちや体調に配慮しながら、入浴の声かけを行い、ゆったりとした入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	利用者の希望に沿った入浴になるように柔軟に対応している。状況により困難な人には機械浴の利用ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室やリビングのソファ、畳など、利用者の希望に沿って休息出来る環境を作っている。夜間は室温・湿度、明るさ、布団など本人の好みも踏まえ配慮し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による訪問療養管理指導を受けている。お薬情報を個人ファイルに保管し、全職員が薬の内容を確認出来るようにしている。事前のダブルチェックと飲み込み確認を行い確実に服薬出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の希望や力を考慮しながら、モップ掛けや洗濯物たみなど、日々の役割を担ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族から希望を聞き、散歩やドライブなど担当職員や家族の協力を得て行えるよう配慮している。今年度はコロナ過にあり、外出支援は思うように実施出来ていない。	コロナ禍だが天候の良いときは近所を散歩し日光浴や気分転換をしている。午後のおやつ時間にお菓子を持参し近くの堰堤で茶話会を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金として事務所で管理しているが、希望される利用者には家族の了解も得たうえで少額のお金を所持し、外出時に自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次ぐ、個別の携帯電話の使用の援助を行っている。希望に応じて家族へ電話をかける支援も行っている。手紙は本人へ直接渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、空気清浄、換気に配慮している。リビングでは季節の応じた飾りを利用者とともに作成したり、食事時には利用者が選んだ音楽をかけるなどしている。	食堂や廊下には季節感のある手作りの飾りや置物があり、テーブル席、ソファなど一人ひとりが心地よく寛げる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ、畳スペースなど自由に過ごせるスペースを設けている。テーブル席は気の合った利用者同士が話しやすいよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族と相談しながら、使い慣れた家具を使用したりや家族写真などを飾るなどして居室づくりを行うように努めている。自宅で布団を利用していた方には畳を準備するなどして自宅に近い環境で過ごせるよう配慮した。	馴染みのある筆筒や寝具など持ち込みその人らしく過ごせる居室にしている。畳使用で利用者の状況に配慮した配置も工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置。トイレを示す表示や居室前の名札を大きくするなどわかりやすいよう配慮している。		